

《平成 29 年度 留学生能楽鑑賞教室を実施しました》

(1)日 時：平成 29 年 6 月 23 日（金）

18：00～ 21：30

(2)内 容：①能楽師による解説「能楽の楽しみ」

②狂言「附子」および能「黒塚」の鑑賞

※日本語、英語、中国語、韓国語の字幕付き

(3)会 場： 国立能楽堂(渋谷区千駄ヶ谷 4-18-1)

(4)参加費用：参加料金は本協会にて負担しました。

(5)参加人数：30 名

※中国：7名、ベトナム：5名、韓国：3名、ドイツ：2名、インドネシア：2名、
フィリピン：2名、フランス：2名、オーストリア：1名、イスラエル：1名、
ギリシャ：1名、ザンビア：1名、タジキスタン：1名、ブルガリア：1名、
モロッコ：1名

(6)実施状況：

昨年度より国立能楽堂で実施されている「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover Noh & Kyogen」に初めて参加しました。

まずはじめに、能楽師のリチャード・エマート氏による解説が行われました。解説は全て英語で行われ、能楽の舞台や所作、楽器に関する基礎について分かりやすく説明していただきました。

30分程度解説を聞いた後、狂言の「附子」と能の「黒塚」が上演されました。「附子」は、劇中の随所にユーモアが盛り込まれており、登場人物である2名の冠者が附子の正体を確認する場面や附子を取り合う場面では、会場から笑いが起こり、留学生も楽しんでいる様子でした。また、能と比較すると日本語が分かりやすく、日本語で鑑賞していた学生にとっても内容が理解しやすかったようです。

「黒塚」ではシテ方、囃子方が登場し、劇中の見所である山伏が鬼女を祈り伏す場面で、迫力のある音楽と謡が演奏され、学生は、能楽独特の音楽に心打たれた様子でした。

鑑賞教室終了後、学生から「字幕があったので内容がわかりやすかった」、「初めて能楽を鑑賞したが、とても面白かった」などの感想が寄せられました。



集合写真(舞台前)